

(様式1)

青森県立保健大学と団体との協働事業平成30年度協働事業評価シート

■協働事業概要【公開】

事業名	子育て応援ルーム(多世代交流広場)ココかれっじ 事業
大学担当教員/課	看護学科 准教授 佐藤愛 / 地域連携推進課
団体	特定非営利活動法人子育て応援隊ココネットあおもり
事業内容	<p>【事業目的】</p> <p>①子育て中の保護者に寄り添うことで、青森の将来を担う子どもたちの健全な育ちを支える。</p> <p>②母親同士や多世代交流を通して子育て中の女性が前向きになり、その事が地域の活性化と社会で子どもを育てる環境づくりを構築する。</p> <p>③ココかれっじをスタッフの人材育成の場とし、また将来子育てを支援する側で活躍するロールモデルとして提示する。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・大学施設を利用し、月3回(第2・第3・第4水曜日、祝日を除く)10:00~16:00まで、広場の開設と月1回(第1又は第5水曜日)スタッフミーティングを実施する。・広場開設に合わせて奇数月の第4水曜日には、保護者向けの託児付ミニ講座を開催する。・大学祭に参加し、活動の周知と交流を図る。 <p>具体的には、ボランティアスタッフが常駐し、親子が気軽に利用できる雰囲気づくりに努め、子育て中のストレス解消につながるような寄り添いと傾聴で支援する。</p> <p>ミニ講座・ミニイベントは、奇数月に大学関係者の協力のもと、子育てや健康管理、コミュニケーションなど、生活に役立つことを学ぶ。偶数月は、ココネットスタッフや地域の有償ボランティアが、親子で楽しめるようなちよつとしたイベントを企画する。</p> <p>大学祭では、親子で楽しめるようなワークショップと、コーヒーや手作り品・リサイクル品販売の企画運営をする。</p> <p>偶数月のミニイベントや大学祭のワークショップに数名の学生ボランティアを募り、イベントに協力してもらいながら親子とふれあえる機会(多世代交流)にする。</p>
実施(契約)期間	平成30年4月1日~平成31年3月31日 【 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 <input type="checkbox"/> 新規事業 】
予算額	<p>【ココネットあおもり負担】</p> <p>消耗品費:¥18,000⇒(チラシ印刷用紙等)</p> <p>【県立保健大学負担】</p> <p>謝金:¥17,000⇒(ワークショップ:講師謝金)</p> <p>交通費:¥44,000⇒(ワークショップ:講師旅費(東京1泊2日))</p> <p>委託費:¥39,600⇒(シッター代¥1,100×6人×6回)</p>
実績 (※事業継続中の場合は、12月1時点の実績を記載)	※別紙参照

(様式1)

■プロセス評価【公開】(実施中の場合は、12月1日時点での評価)

※下記の項目について、該当する番号を評価欄に記入してください。

評価… A:よくできた B:ある程度できた C:あまりできなかった D:できなかった E:該当しない

「E」を選択した場合は、下記記述欄にその理由を記入してください。

		評価欄		
		団体	大学	
事業実施前	1	協働で事業を実施する目的を両者で確認したか。	A	A
	2	事業の成果目標を協議のうえ決定したか。	A	A
	3	具体的な企画内容や実施内容を協議のうえ決定したか。	A	A
	4	事業を進めるための役割分担を協議のうえ決定したか。	A	A
	5	成果物(著作物)の帰属や公表、また、その活用の方法について協議したか。	A	B
事業実施段階	6	事業の進捗状況や必要な情報について共有化できたか。	A	A
	7	相手の得意な分野や弱い分野を理解し、協力し合いながら事業を進めることができたか。	A	A
	8	事業を進めるにあたり状況の変化に応じて、協議しながら柔軟な対応ができたか。	A	A
	9	お互いの機能を生かし、必要に応じて市民への参画を呼びかけたか。	A	B
事業成果や波及効果	10	事業の成果目標は達成できたか。	A	A
	11	協働で事業推進することによって、単独で実施するよりも成果が上がったか。	A	A
	12	協働で事業推進することによって、組織にとって何か変化をもたらしたか。	A	B
	13	事業の結果(成果)などを広く情報提供したか。(予定がある場合も含む)	A	B
	14	市民自らが地域の課題解決に取り組む機運が芽生えるなど、従来よりも市民の参画機会が広がったか。	A	A
	15	経費の見積は適切だったか。	A	A
	16	トラブルが発生した際の準備や対応は適切に行われたか。	A	A
総合評価			A	A

「E: 該当しない」を選択した場合は、その理由を記入してください。

団 体	
番号	理 由

大 学	
番号	理 由

(様式1)

■成果と課題点【公開】

団 体	
協働することで成果があった点	課 題 点
<ul style="list-style-type: none">・ミニ講座で大学の先生のお話を聞くことで、ママ自身が学ぶことの大切さを実感していた。・2013年から大学と協働で5年以上広場を続けていることで、二人目・三人目のお子さんが生まれた方にも再度利用され、親子で集える場所として地域に定着してきた。・ココかれっじ設立当初から、学生が卒業研究に子育て支援をテーマに選び、ココネットあおもりではココかれっじでのアンケートなどで研究に協力している。30年度も2人の学生の研究に役立った。	特になし。

大 学	
協働することで成果があった点	課 題 点
<ul style="list-style-type: none">・大学の役割である「教員による専門知識の提供」について順調に遂行できた。・大学教員がミニ講座の講師を担当することで社会貢献に寄与できた。・学生が乳幼児と触れ合う機会が得られた。	<ul style="list-style-type: none">・昨年度に比べると学生のココかれっじに対する認知度は高まったと考えるが、今後も継続した周知PRが必要と考える。

子育て応援ルーム（多世代交流広場）ココかれっじ 平成30年度実績（12/1現在）

NPO 法人子育て応援隊ココネットあおもり

実施期間：平成30年4月1日～12月1日

実施回数：4月～11月 24回

利用者数：930人（1回平均 38.8人）

ミニイベント：4月 大型絵本を読もう（ココネットスタッフ）

6月 指人形で遊ぼう（さんぽぽスタッフ・藤本まどかさん）

8月 英語の絵本を読もう（小笠原メリッサ先生）

10月 手あそび体あそび（ココネットスタッフ）

ミニ講座：5月 知って安心！産業保健制度～パパとママの健康を守るために～（千葉敦子先生）

7月 “NO”を気持ちよく言えるように（川内規会先生）

9月 ママのコリほぐしストレッチ（佐藤愛先生）

11月 離乳食と子どもの食について（谷川涼子先生）

大学祭：親子ワークショップ「ミニ人形劇とバルーンアート」（人形劇屋たくたく堂さん）

※あおもり子ども劇場とのコラボ企画

《ココかれっじの様子》

4月



5月



6月



7月



8月



9月



10月



10月・大学祭



11月



※7月（体育館使用）



ココかれっじ活動報告（卒業研究発表会）

活動日	平成30年 11月 7日（第1水曜日）
活動場所	青森県立保健大学C棟1階認定演習室
スタッフ人数	11人
活動内容	
<p>毎月第1水曜日は、ココかれっじスタッフの打合せを行い、ココかれっじに関する話し合いを通じ効果的な運営を図るとともに、スタッフの運営能力の向上に努めています。</p> <p>11月7日のスタッフ打ち合わせの際には、NPO法人子育て応援隊ココネットあおもりを含む青森市内の子育て支援団体の研究を行った学部生2人の卒業研究発表会も開催しました。</p> <p>発表会には、運営スタッフ11人のほか、学部生の指導教員1人、研究に協力した外部団体の代表者1人、大学側の協働事業担当者1人も参加しました。</p> <p>発表会では、学部生からの研究結果の発表の後、質疑応答及び意見交換が行われました。</p> <p>質疑応答・意見交換では、研究結果に基づき、母親が子育て広場に期待する要素や母親間交流促進におけるスタッフの役割等について、学生とスタッフの間で活発な意見交換が交わされ、今後のココかれっじ運営スタッフの育成の参考となりました。</p> <p>協働事業の実施により、学部生の学術研究のテーマ、フィールド等につながることを期待するとともに、卒業研究発表会のような会を開催することにより、協働事業実施主体として、学術研究結果と実践現場の積極的な交流の場を提供できるようこれからも努めていきたいと思っております。</p>	
当日の様子	
	
学部生の発表の様子	質問する外部団体代表者（後列右側）及び熱心に耳を傾ける運営スタッフたち